



カナダと日本を結ぶコミュニケーションプレス

メイプル

東北

Vol.15

舞い降りるファンタジー カナダの冬

空から白い使者が舞い降りると、いよいよ本格的なウィンターシーズン。長く、時には厳しいけれど、自然が描く無垢の景色は、まるで童話の世界のようです。

白銀のベールに覆われた小さな家の中では、家族が暖かい団欒の時を過ごしているのかもしれない。

NEWS

● 平成10年度定時総会が開催

General Meeting of fiscal year 1998

5月25日、東北電力福祉センターにおいて東北日本カナダ協会の平成10年度の定時総会を開催しました。今年度の総会には、カナダ大使館から、バーネット広報文化部長、ウメツキ二等書記官のご出席をいただき、会員82名が出席しました。

総会では、明間会長の議事進行により、平成9年度決算の報告、平成10年度事業計画ならびに事業予算、役員を選任についての議案が承認されました。

定時総会后、バーネット広報文化部長による、「日本におけるカナダのイメージ向上策」と題した講演が行われ、通算13年以上の日本勤務経験者、日本通で知られるバーネット部長の流暢な日本語に思わず、驚嘆の声を上げる出席者もいました。

また、恒例の懇親パーティーでは、会員同士が再会を楽しむ中、トーマス・マクロリーさん司会のあみだくじを行い、ホテル券やワインなど会員の皆さまからご提供いただいた豪華商品をめぐり、会場は大いに湧きました。



● カナダデー *Canada Day Get-together '98*



今年も、カナダデーを祝う会が東北電力福祉センターで開催されました。当協会幹事の倉成正也さんが中心となって始めたこのイベントは、今年で4回目になります。

7月1日には、43名がこの日を祝うために集い、楽しい時を共に過ごしました。パーティーの最後には、それぞれがカナダを想いながら「オー・カナダ」を熱唱し、盛会のうちに閉会しました。

今後の予定 Coming Event

クリスマスパーティ
〈12月15日(火)〉

December 15th, Christmas Party.

時間・場所は後ほどご連絡いたします。
Further information will be sent to you later.

その他、何かございましたら、
ホームページの掲示板に掲載ください。

<http://www.sugawara.ac.jp/home/academic/canada/>

◆◆◆ イベント大募集!! ◆◆◆

If you are planning to organize some events related to Canada, please give us a call.

カナダに関連する自主企画イベントを募集しています!!
カナダ協会では、「カナダデーの集い」「サンクスギビング」「カナダの遊びや歌を楽しむ会」など会員の自主企画を募集しています。

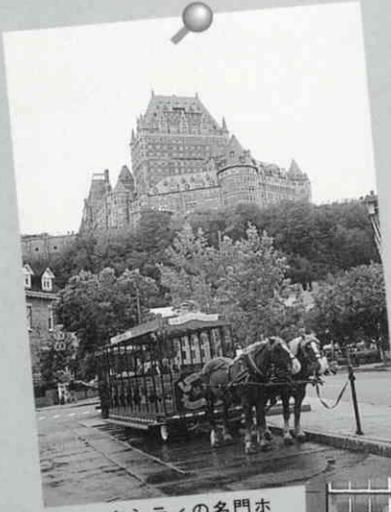
「こんなことをしたいけど、一緒にやってくれる方がいるかしら?」
と考えているあなた、カナダ協会事務局まで是非ご相談ください!
お待ちしております。

第2回カナダツアー特集

The Second Canada Tour

「ぜひ、第2回目のカナダツアーを企画して欲しい!」との会員の強い要望を受け、第2回カナダツアーを7月10日から18日までの日程で催行いたしました。明間会長、新本副会長をはじめ総勢63名が、ベストシーズンのカナダ東部を訪問いたしました。

CANADA ～旅のスナップ～



ケベックシティの名門ホテル「ル・シャトー・フロントナック」に2泊滞在。



プリンスエドワード島に咲く、可憐な花々。



「赤毛のアン」ゆかりのグリーン・ゲイブルズ・ハウス。



サッカーW杯のテレビを告知する看板。街はすっかりお祭り気分。



日本とカナダの親睦を深めあった、フェアウェルパーティー。

● カナダ外務省訪問・記念植樹

Visiting Department of Foreign Affairs and International Trade & Planting Trees

カナダの首都オタワでは、カナダ外務省を訪問し、カナダ協会の前名誉会長、キャンベル外務次官（前駐日カナダ大使）にお会いしました。外務省のホールでの歓迎セレモニーの後、第2回カナダツアーを記念して記念植樹・タイムカプセルの埋設をしました。

記念植樹は、アイスストームの被害により失われた緑をとりもどすため、日加友好記念の桜5本を、外務省に程近いコンフェデレーションパークに贈呈したものです。植樹には、キャンベル外務次官、明間会長、ツアー参加者全員が協力し、共に日加友好親善の進展を願いながら桜の苗木を植えました。皆の想いのこもった桜の傍らには、今回のツアーを記念したタイムカプセルを埋めています。このタイムカプセルは、5年後に掘り起こされる予定です。



カナダツアー参加者の声

カナダツアーに参加して 石田由紀夫 石田美子

海外旅行は、せいぜいハワイくらいだと思っていたので行くことなどまず無いと思っていた「カナダ」。カナダ協会のツアーの話聞いた時、コースなど何も聞かずに1も2もなく行く行くー!!と答えました。

折り込みチラシなどでの旅行会社の案内は、バンクーバー・ロッキー山脈など西海岸が主なコースですが、今回のツアーは、東海岸ということで、行きたい気持ちがふくらんできました。どんな所だろうと図書館でガイドブックや「赤毛のアン」の本を見たり、ワクワクの日々でした。

いよいよ機上の人になり、見下ろす大地の広大さ、畑の一区画が大きいことに大変驚きました。

1日目、2日目のケベックシティでは、お城に泊るなど夢のようなことばかり。3日目は、メープル街道に沿って列車の窓外に見える木々や、見たことのある様な草花が多く、素朴で自然な風景がカナダを親しみ深いものにしてくれました。

モントリオールとオタワは、近代的な高層ビルとヨーロッパ調の建築物とが調和して立ち並ぶ街並が印象に残りました。時折りワールドカップサッカーでフランスが優勝し、フランス系の住民が多いモントリオールの街は大変な賑わいを見せていました。5日目、6日目は、珍しい赤土そして赤毛のアンで有名なプリンスエドワード島。お化けの森・恋人の小径をゆっくり散策できなかったのが残念でした。

7日目、ナイアガラへの途中に、塩の山がたくさん目につきました。冬期の融雪のためとかでこの塩によって、新車もすぐに錆びてしまうそうです。それにしても、車がなければどうにもならない広大な国土のため道路網が非常に発達しており、しかも高速道路が無料、ガソリンが日本の1/3位という低価格、また生活必需品には消費税をかけないことは、実にうらやましく感じました。ナイアガラで添乗員さんの粋な配慮で「霧の乙女号」へ乗船できた感激は、今でも思い出します。滝のすぐ近くまで行き、青空と雄大な自然の中、水しぶきでビショビショになりながらの迫力満点の貴重な体験でした。広大な土地(日本の27倍)を短時間で移動するわけなので乗り物疲れは極限でしたが、同じホテルに2泊づつでき、天候に恵まれたことは、大満足でした。

最後にオタワでの外務省訪問や記念植樹とタイムカプセルなど、今回の企画にあたった事務局の皆さんに御礼申し上げます。また、ご一緒させて頂いた皆様大変お世話になりました。機会があったらまた行きたいと思えます。特に「秋田弁で」騒いでいた人共々、是非お誘い下さいますようお願いいたします!!



石田御夫妻

ケベック・シティを訪ねて 後藤 充

ケベックシティの18世紀の戦場跡地(シタデル要塞)と城塞に囲まれた旧市街は、ヨーロッパのロマンチックな雰囲気漂わせる。仏語の交通標識と看板は私を不安に陥れるが、フランスの古城の様なシャトー・フロントナックと崖下を流れる大河セント・ローレンスの風景に唯々感激あるのみであった。

午後、川沿いに700Mも続くボード・ウォークのテラス・デュフランを独りそぞろ歩くと、大道芸人が人を集めて芸をお披露目して居り、サマーフェスティバルが始まった事がわかる。ケーブルカーで下に降りるとチャーミングな繁華街があり、こじんまりした土産物などのお店が並んでいる。早速旅先の思い出にケベックの街並みの絵を探して買い求めた。今はもうすでに9月となり、ケベックの街がどのように秋の装いを凝らしているか、想像を巡らし、楽しんでいるこの頃である。



後藤さん(右から2人目)



齋藤 充さん

カナダのまちづくり 齋藤 充

今回のツアーには、①カナダの文化・生活様式、②カナダのまちづくり、についての調査ということで参加させて頂いたが、特に私が印象に残った都市は、数年前にカナダからの分離をめぐり州民投票が行われたケベック州の中心都市となっているケベックシティとモントリオールであった。フランスからの移民が多いこの2つの都市では、例えば、道路標識や商業用看板の殆どがフランス語で表記されており、英語と併記されている場合でも、州の法律によりフランス語が英語の2倍以上の大きさになっているなどフランス色の濃い都市であった。但し、ケベック州の人々はイギリス的なものに反旗を翻しているわけではなく、あくまでフランス文化を守り、磨いているといった印象を強く受けた。

また、私たちがモントリオールを訪れた日は、サッカーのW杯でフランスが優勝した時で、街の中では、大勢の若者がフランス国旗を振りかざし、大騒ぎしていたことと、その日行われていた花火大会が素晴らしかったことが今でも心に残っている。

スリリングなモントリオール 杉山明美

それはワールドカップ決勝の日。観光帰りのバスが渋滞でいっこうにホテルに着けないのです。フランス系移民の多いこの地では、フランスの優勝に大騒ぎ。当然ブラジル系移民もいるわけですから、「自分の国が一番だ」とでもアピールするかの様に車の窓からそれぞれの大きな国旗を翻し、笛を鳴らす人々が街は異様な熱気とパワーに溢れていました。そんなムードに私達も些か気分が高揚していました。

夜は出歩かないように言われたにも拘らず、川べりに見たフラワーフェスティバルの花火の美しさ、ジャズフェスティバルの熱い演奏。それぞれの会場に向かう途中で、明らかに肩のコツンとぶつかる距離に多種多様な人種が息づいているのを肌で感じました。この雑多な世界は色々なものを受け入れつつも、タフでなければ生きていけない、そう感じた瞬間でもありました。なかなかスリリングなモントリオールの夜でした。



杉山さん(右端)

◎Letters to Maple(メイプルへのお便り)欄にお便り募集

メイプルにお便りをお寄せ下さい。カナダに関する事ならなんでも結構です。おハガキ、封書またはFAXで、当協会宛にお送り下さい。

1998年10月発行
発行人/東北日本カナダ協会 The Tohoku Canada-Japan Society
〒980-8550 仙台市青葉区一番町三丁目7-1
東北電力(株) 地域交流部内 TEL. 022-225-3052(直)
FAX. 022-227-8390